

別紙 1. 今回の投資案件

プロジェクト タイトル	就学前児童の住血吸虫症治療:L-ブラジカンテルの口腔内崩壊様製剤の開発、登録および医薬品アクセス確保
製品開発 パートナー	アステラス製薬株式会社、Farmanguinhos、ケニア国立医学研究所、メルク株式会社、Schistosomiasis Control Initiative (SCI)、Swiss Tropical and Public Health Institute、Université Félix Houphouët Boigny (UFHB)、Lygature
疾患	住血吸虫症
製品	治療薬
開発段階	第Ⅲ相試験 – 薬事申請
投資額	¥452,329,597
ステータス	継続案件
概要	<p>住血吸虫症(別名:ビルハルツ住血吸虫症)は、寄生虫を原因とする慢性疾患で、78もの発展途上国で蔓延している顧みられない熱帯病の一つです。世界では、1億人以上の児童を含む、2.06億人以上の人びとが住血吸虫症に感染しています。マラリアに次いで世界で発生率の高い熱帯病の一つで、途上国にとって大きな健康問題となっています。とりわけアフリカ地域で約9割以上の感染が起きていることから、深刻な問題となっています。</p> <p>標準的な住血吸虫症の治療はブラジカンテル(PZQ)が投与されますが、成人および年齢の高い児童を対象とした経口の錠剤のみです。しかし、4歳未満の児童における薬物動態データは不足しており、また適切な服用量を決定するための臨床試験が最近まで実施されてきていなかったため、4歳未満の児童での有効な服用量は分かっていませんでした。このような背景により、正確な小児用量で、服薬コンプライアンスが改善された就学前児童、乳幼児を含む低年齢の児童に適したブラジカンテル小児製剤の開発が強く求められています。このような新規のブラジカンテル小児製剤の開発の必要性は、2020年までに顧みられない熱帯病の各疾病を制圧するための世界保健機構(WHO)のロードマップや、国際社会が合意した“Uniting to combat Neglected Tropical Diseases”においても重要視されています。</p> <p>プロジェクトの目的 小児用ブラジカンテル・コンソーシアムは、国際的非営利パートナーシップとして住血吸虫症の世界的疾病負担を軽減することを目指して活動し、感染した就学前児童の医療ニーズに 대응しています。コンソーシアムの使命は、就学前児童の住血吸虫症を治療するために適した小児用ブラジカンテル製剤を開発・登録し、入手可能にすることです。研究対象となっている小児用製剤は、現在市販されている製剤と比較して小型で、味覚が改善され、口腔内で崩壊しやすいものとなるように考案されました。</p> <p>プロジェクト・デザイン コンソーシアムは、2012年7月にメルク(ドイツ、ダルムシュタット)、アステラス製薬、スイス熱帯公衆衛生研究所(Swiss TPH)、Lygature(元 TI ファーマ)によって創設されました。2014年初めには、FarmanguinhosとSimcyp(Certaraグループ)がフル・パートナーとしてコンソーシアムに加わりました。2016年には、住血吸虫症抑制イニシアチブ(SCI)が参加しました。2017年末には、Simcypが薬物動態モデリング構築における役割を完了したためコンソーシアムを脱退しました。2018年1月には Université Félix Houphouët Boigny (UFHB)および Kenya Medical Research Institute (KEMRI)が新たなパートナーとしてコンソーシアムに加わりました。前臨床試験、第Ⅰ～Ⅲ相試験、登録を達成するためコンソーシアム創設時より全てのパートナーが効率的にプロジェクトに取り組んでいます。</p> <p>全てのパートナーは、コンソーシアム契約に拘束されています。この契約により、パートナーの役割と責任が割り当てられ、公式のガバナンス構造としてコンソーシアム理事会を最高意思決定機関とすることと、Lygatureを独立的コーディネーターとすることが定められています。各臨床開発段階の前に、コンソーシアムは外部専門家パネルに委嘱してプロジェクトに対する独立的評価を得ています。パートナーは、メルクを中心としたコア・プロジェクト・チームを形成しています。これには各パートナーや専門領域から1人ずつ代表者が参加し、毎月会合が開かれています。コア・プロジェクト・チームには、それを補佐する様々なサブチームがあり、各サブチームは、コンソーシアムのプログラムを実行するために個別の技術面や運営面に重点を置いています。</p>

プロジェクト詳細

<https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/138/jp>

プロジェクト タイトル	4種すべての血清型に対して中和活性を有する抗デングウイルス抗体の前臨床開発
製品開発 パートナー	中外製薬株式会社、シンガポール科学技術研究庁 シンガポール免疫ネットワーク
疾患	デング熱
製品	治療薬
開発段階	非臨床試験
投資額	¥489,273,750
ステータス	継続案件
概要	<p>デング熱は、世界中の熱帯および亜熱帯地域で見られる蚊媒介性ウイルス感染症です。デング熱の原因となるデングウイルス (DENV) には 4 種の異なる血清型があり、感染によって、高熱、激しい頭痛、関節、筋肉および骨の痛み、ならびに皮膚の発疹などの症状を引き起こします。DENV は血液凝固機能を阻害するため、軽度の出血がしばしば観察されます。重症の場合には血漿が血管から漏出し、致命的となる体液喪失が認められます。最近の調査によると、年間におよそ 3 億 9000 万人が感染しており、50 万人の重症患者が入院しています。デング熱に対する治療法はまだ確立されていません。</p> <p>本プロジェクトでは、抗体依存性感染増強 (ADE) リスクのないデング熱の治療薬として、4 種すべての血清型を中和できる安全かつ有効性の高い抗 DENV 抗体の開発を目指しています。なお、ADE は 2 回目の DENV 感染における重症化に関連すると考えられています。</p> <p>中外製薬と SIgN は新規抗 DENV 抗体の前臨床開発に取り組んでいます。この継続プロジェクトでは、以下の目的を達成する予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ヒト初回投与臨床試験 (FIH) に使用する治験薬の GMP 製造 2) 臨床試験を開始するために必要な前臨床試験の完了 (GLP 毒性試験など)
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/134/jp

プロジェクト タイトル	新規作用機序を有し多段階の生活環において効果を示す抗マalaria薬の開発
製品開発 パートナー	エーザイ株式会社、ブロード研究所
疾患	マalaria
製品	治療薬
開発段階	非臨床試験
投資額	¥536,822,427
ステータス	継続案件
概要	<p>マalariaの治療および最終的な制圧は依然として困難な状況にあります。最も致死性の高い熱帯熱マalaria原虫に薬剤耐性が出現しているのが大きな理由です。それゆえに、既存の抗マalaria薬に対する耐性機構に影響されない新たなリード化合物の創出が必要です。さらに、マalariaの流行を防ぎ、脆弱な人々を守るためには予防薬と伝播を阻止する薬剤が必要ですが、現在の標準治療薬はマalaria原虫の生活環全体に対して有効性を持つものではありません。ブロード研究所はエーザイと協力し、新規標的である熱帯熱マalaria原虫細胞質性フェニルアラニン tRNA シンターゼ (PfcPheRS) に作用する一連の抗マalaria化合物を見出しました (Nature, doi:10.1038/nature19804)。特徴的な二環性のアゼチジン構造を有するこれらの化合物は、熱帯熱マalaria原虫の血液および肝臓、伝播段階の全てに対して in vitro と in vivo の両方で良好な薬効を示します。</p> <p>今回の提案は、以前の GHIT Fund の助成 (G2014-107 および G2016-219) によって得られた良好</p>

	<p>な薬効プロファイルと向上した合成ルートを有する複数の化合物について研究を行うものです。これらの成果により、前臨床研究および IND 申請のための GLP 試験の完遂が見込まれ、今回の最終目標は Medicine for Malaria Venture (MMV) によって設定されたターゲットプロファイルを満たす化合物の第 1 相試験に備えることです。</p> <p>本プロジェクトでは二環性アゼチジン化合物群の詳細な前臨床データを得ることを企図し、抗マラリア薬候補化合物の第 1 層臨床試験に備えることを最終目標としています。主要な目標は、以下の 4 点です。(1) 候補化合物の物性科学プロファイリングおよび適切な塩型の選択 (2) GLP に準拠した化合物合成 (3) 投与剤型の開発 (4) IND 申請に用いる非臨床毒性試験の実施</p>
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/137/jp

プロジェクトタイトル	マラリア治療のための新規マラリア原虫 DHODH 阻害剤の前臨床開発
製品開発パートナー	エーザイ株式会社、ブロード研究所
疾患	マラリア
製品	治療薬
開発段階	非臨床試験 (リード化合物最適化)
投資額	¥421,418,717
ステータス	新規案件
概要	詳細は、後日 GHIT Fund ウェブサイトに掲載いたします。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/133/jp

プロジェクトタイトル	リーシュマニア症の予防のための弱毒生ワクチン
製品開発パートナー	長崎大学熱帯医学研究所(熱研)、マギル大学、オハイオ州立大学、Genova Biopharmaceuticals Ltd.
疾患	リーシュマニア症
製品	ワクチン
開発段階	非臨床試験
投資額	¥399,898,983
ステータス	継続案件
概要	<p>リーシュマニア症は典型的な細胞内寄生原虫であるリーシュマニアを原因とし多彩な病型を呈します。感染はサンショウバエによって伝播され、世界で 3 億 5000 万人が感染のリスクに曝されています。世界保健機関 WHO は同症を顧みられない熱帯病 NTD に分類しています。内臓型リーシュマニア症 (Visceral leishmaniasis: VL) は同症の最も重篤な病型であり適切な治療がなされると致死的です。VL を含めリーシュマニア症から回復した患者が再感染に対する防御免疫を獲得することはよく知られており、ワクチン開発が実現可能であることを示唆します。我々はリーシュマニアの病原性と宿主内持続感染に不可欠な遺伝子のノックアウトによってリーシュマニア症に対する弱毒生ワクチンを開発しました。</p> <p>本プロジェクトの総合目標は上記ワクチン候補の前臨床試験を進展させることにあります。本プロジェクトでは、1) 医薬品規制に関するガイドラインに従ってワクチンの前臨床試験を前進させ、2) 臨床試験へ向けて臨床グレードの GMP ワクチンを製造します。</p> <p>我々は CRISPR-Cas 技術を用いて、薬剤耐性遺伝子フリーの <i>centrin</i> 遺伝子欠損 <i>L. major</i> (<i>LmCen^{-/-}</i>) の創出に成功し、前臨床試験でその安全性と免疫付与能を確認しました。本プロジェクトでは GLP レベルの <i>LmCen^{-/-}</i> ワクチンを製造し、医薬品規制に関するガイドラインに従って動物を用いた前臨床毒性試験を行い、臨床試験へ向けて十分量の臨床グレードの GMP <i>LmCen^{-/-}</i> を製</p>

	造します。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/135/jp

プロジェクト タイトル	MMV 田辺三菱製薬協働による抗マalaria剤リード化合物最適化研究
製品開発 パートナー	田辺三菱製薬株式会社、Medicines for Malaria Venture (MMV)
疾患	マalaria
製品	治療薬
開発段階	非臨床試験(リード化合物最適化)
投資額	¥192,247,534
ステータス	継続案件
概要	<p>本プロジェクトは、約 5 万の田辺三菱製薬が所有する化合物ライブラリを対象に実行した高速スクリーニングから選抜した 3 つの化合物シリーズに対して、薬効、物性、薬物動態評価を指標にヒットツーリード誘導体展開を進めてきました。その結果、シリーズ1の化合物群は抗マalaria薬として新規の分子作用メカニズムが期待され、GHIT/MMV により設定されたリード最適化研究を進めるクライテリアを満足するに十分な即効性があり、マalaria原虫の各寄生段階の標的候補薬剤プロファイル(TCPs; 1. 症状軽減目的の迅速な抗マalaria原虫作用 4. 肝臓ステージでの治療効果、予防的使用法 5. 感染地域における再感染予防)に合致した強力な薬効を示し、併せて物性面と薬物動態面においても優れた特性を持ち、ヒトマalariaのマウスモデルにおいても <i>in vivo</i> 薬効を示すことから最適化研究を進めることとしました。</p> <p>本プロジェクトの目的は、MMV においてプロジェクト進行基準により定義されているように 18 か月以内に後期リード候補化合物を見出し、さらに、最後の 6 か月はヒト初回投与臨床研究に進められるような前臨床候補化合物の選抜、育成を目指します。加えて、現在研究を進めている作用機序を解明することにあります。最終的には本プロジェクトでは、既存薬の耐性が出現している地域においても、安全にマalariaを治療する能力を持つ化合物の可能性を評価します。</p> <p>本プロジェクトは創薬化学、分子設計、寄生虫学、薬物動態、安全性研究の専門家による多様な技術と経験を活かし、多面的に創薬研究を進めていきます。初期リード化合物を出発点として、MMV、MTPC 相互に協力し、更なる薬効、薬剤選択性、物理化学的性状改良、薬物動態、安全性における問題点の改善を着実に進め、前臨床候補化合物創製を目指し系統的に誘導体を合成していきます。</p>
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/136/jp

プロジェクト タイトル	MMV と武田薬品による新たな抗マalaria薬としてのリード化合物探索プログラム
製品開発 パートナー	武田薬品工業株式会社、Medicines for Malaria Venture (MMV)
疾患	マalaria
製品	治療薬
開発段階	非臨床試験(リード化合物探索)
投資額	¥52,800,000
ステータス	継続案件
概要	マalariaは毎年 2 億人以上が感染し、2016 年には感染による死者は推定 44 万 5 千人に達しています。マalariaを撲滅させるには、耐性株対策、原虫感染時、そして形態変化時や肝臓休眠体に有効な新しい薬剤の創製が必要です。プロジェクトチームは現在、マalaria原虫の生活環の中の赤血球期において効果を発揮する 3 つのヒット化合物シリーズの研究に取り組んでいます。最も注力しているシリーズは武田薬品の自社研究パイプラインから提供されたものです。その他の二つのシリ

	<p>ーズは、GHIT Fund のスクリーニングプラットフォームにおいて赤血球期及び肝臓休眠期の抗マalaria原虫作用を有することが確認されたヒットシリーズです。このスクリーニングは MMV が提携するアメリカのカリフォルニア大学サイディエゴ校の Elizabeth Winzeler 教授とオーストラリアのグリフィス大学ドラッグディスカバリー研究所の Vicky Avery 教授らによって実施され、武田薬品が保有する 2 万個の化合物ライブラリーに対して赤血球期及び肝臓休眠期の抗マalaria原虫作用が調べられました。</p> <p>このプロジェクトでは、3 つのヒット化合物シリーズを基にリード化合物の探索を行います。2020 年 3 月までに GHIT/MMV で設定されているリード化合物最適化段階に進む条件を満たし、in vivo 病態モデルでの効果を示す化合物を少なくとも 1 つ創製することを目指します。</p> <p>最初の段階では、リード化合物探索プロジェクトのために選択されたヒット化合物シリーズの中から有望な化合物に対して、マalaria原虫の形質変換(生活環)の各ステージに対する作用のプロファイリングを実施します。並行して、新規誘導体合成と構造活性相関研究を展開し、その抗マalaria活性と毒性の指標となる細胞障害性を評価します。また物理化学的性質、安定性そして薬物代謝指標も検討します。その後、有望な化合物についてげっ歯類における薬物動態試験を実施し、ヒトマalariaの評価モデルにおいて有効性を検証します。最適な化合物構造の探索研究を進め、GHIT Fund の次の研究ステージに進める際の基準となる医薬品候補のリード化合物を見出すことが目標です。</p>
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/141/jp

プロジェクト タイトル	抗結核活性を有する新規天然化合物のヒット・トゥ・リード研究
製品開発 パートナー	第一三共 RD ノバーレ株式会社、TB アライアンス
疾患	結核
製品	治療薬
開発段階	非臨床試験(リード化合物探索)
投資額	¥119,244,000
ステータス	継続案件
概要	<p>現在結核治療に用いられている薬剤は 40-50 年ほど前に見つかったものが多く、現在に至るまで治療法はほとんど変化していません。既存薬剤の効果がある結核患者の場合においても、平均して 6 ヶ月間複数の薬剤を毎日服用する必要があります。一方、薬剤耐性を持つ結核患者の場合の状況は一層悪く、治療は少なくとも 18 ヶ月続ける必要があります。その期間中は薬効が弱く毒性を持つ既存薬剤を用いる必要があります。薬剤耐性を持つ患者の治療率は現在わずか 54%と推定されています。そのため治療期間が短縮でき薬剤耐性のヒト型結核菌に対しても治療効果をもたらす、実効性のある新しい結核薬が緊急に必要とされています。</p> <p>治療期間が短縮でき薬剤耐性のヒト型結核菌に対しても治療効果をもたらす、実効性のある新しい結核薬に繋がるリード化合物を創出します。</p> <p>今回のプロジェクトは、第一三共 RD ノバーレ、TB アライアンス及び結核予防会結核研究所が協力し、GHIT Fund に支援され実施したスクリーニングプログラムに端を発しています。第一三共 RD ノバーレが保有する放線菌や真菌などの微生物を用いた天然物ライブラリーとなる 3 万個の抽出サンプルと 600 個の単離された天然化合物を利用し、ヒト型結核菌に対する殺菌作用を評価するスクリーニングを結核予防会結核研究所で実施しました。この 3 つの研究機関の緊密な協力により、ヒト型結核菌への作用を基に活性本体が単離・構造決定されました。複数の天然化合物がヒット化合物として選抜され、さらなる薬理評価の結果、ヒット化合物から選択された 2 つの化合物シリーズについて、微生物の醗酵生産による誘導体出発物質の生産、誘導体出発物質からの誘導体展開、新規作用メカニズムの解明を含む研究計画が立案されました。</p>
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/142/jp

プロジェクト タイトル	新規赤血球期マalariaワクチンの開発
----------------	----------------------

製品開発 パートナー	愛媛大学、iBET、欧州ワクチン・イニシアティブ
疾患	マラリア
製品	ワクチン
開発段階	抗原探索—技術プラットフォーム探索
投資額	¥93,057,133
ステータス	新規案件
概要	<p>マラリアは患者ならびに死亡者数も依然として甚大で、グローバルヘルスにおける重要疾患の一つとなっています。また、これまでのマラリア対策も、薬剤耐性マラリアや殺虫剤耐性ハマダラカの出現により困難に直面しています。そこで、新たな対策としてマラリアワクチンの開発が国際的に進められてきました。しかし、最も開発が進んでいる第一世代マラリアワクチン(Mosquirix)の効果は十分とは言えず、より有効な次世代マラリアワクチンが切望されています。そこで本プロジェクトでは、新規赤血球期マラリアワクチンの開発を進めることとしました。このワクチンが実用化されれば、Mosquirix に追加することによって、マラリア原虫の発育を多段階で止めることのできる次世代マラリアワクチンの開発につながることを期待できます。</p> <p>このプロジェクトでは、愛媛大学が大日本住友製薬株式会社との共同研究で発見した PfRipr5 と呼ばれる熱帯熱マラリア原虫のタンパク質を、新規赤血球期マラリアワクチンとして開発を進めることを目的とします。まず、臨床試験用のタンパク質が合成可能なタンパク質発現システムを用いて PfRipr5 を合成します。次に、合成した PfRipr5 タンパク質を、既にヒトに投与されている2種類のアジュバント(免疫増強剤)を用いて製剤化し、動物に投与して効果を判定し、最適のワクチン候補を決定します。</p> <p>1) 臨床試験用のタンパク質を大量合成することのできるタンパク質発現システムの内、昆虫細胞と哺乳類細胞の2種類を用いて PfRipr5 を合成し、高品質な PfRipr5 タンパク質が大量に合成できる発現システムを選択します。</p> <p>2) 合成した PfRipr5 タンパク質を、既にヒトに投与されている2種類のアジュバント(免疫増強剤)を用いて製剤化します。</p> <p>3) このワクチン製剤を実験動物に投与して免疫後の血清を採取します。この血清中の抗体価を測定し免疫原性を評価します。次に、この抗体を培養熱帯熱マラリア原虫に添加して、マラリア原虫の増殖阻害活性を測定しワクチン効果を判定します。これらの結果から、次のステップとなる前臨床試験に進む最適のワクチン候補を決定します。</p>
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/139/jp

プロジェクト タイトル	Development of LFA platform for improving sensitivity of Point-of-Care assays for infectious disease with main focus on Tuberculosis and Malaria.
製品開発 パートナー	旭化成株式会社、Biopromic AB
疾患	結核
製品	診断薬
開発段階	コンセプト開発
投資額	¥100,000,000
ステータス	新規案件
概要	<p>マラリア、結核および他の多くの感染症は、撲滅に向けた様々な活動、施策が実施されているにもかかわらず道半ばといった状況です。それら撲滅戦略において現在では、特に流行地域での早期発見を目標とした診断手法の拡大もしくは改良の必要性が増してきています。</p> <p>ポイントオブケア検査(POCT)は、ベッドサイドで、あるいは患者自身によってさえも検査可能な、迅速、正確かつ簡便に診断することを可能にしましたが、POCTとして現在利用可能な感染症はごくわずかであり、それらは撲滅を目指す感染症に対する実際の需要のほんの一部でしかありません(感染症診断薬に対する WHO TPP より)。</p> <p>POCTにおける最大の課題は、試料中に対象とする抗原が非常に低濃度であっても、容易かつ正</p>

	<p>確に診断できることです。簡易診断法のひとつである Lateral Flow Assay (LFA)は、対象とする感染症にもよりますが、現在 1~5ng/ml を超える分析感度を達成しています。一方で、結核およびマラリア患者の場合は、検体中の抗原濃度は通常 100pg / ml 以下であることを考慮すると、上記目標の為により高感度の LFA システムを開発が必要なことは明らかです。</p> <p>本プロジェクトの目的は、現在の業界標準から最大 50 倍の抗原検出感度の向上を目指した新しい LFA プラットフォームを開発することです。</p> <p>LFAにおいてこのような高い分析感度を達成するためには、LFAシステムの複数の構成要素の大幅な改良および統合が必要です。この目標を達成するために、プロジェクトにおける以下の3段階で、両社によって開発された5つ以上の技術を組み合わせ、最適化します。</p> <p>(1) まず、高感度プラットフォームの TPP の開発の為、両社の技術の評価とそれらを組み合わせる為の検討を行います。両社がもつ固有の技術の複数の組み合わせを製品とするために、個々の技術のバランスを考慮した最適化アプローチが必要になります。</p> <p>(2) フェーズ 1 で得られるプラットフォームの構想をベースとして、実際にプロトタイプ作成を見据えた技術的実現可能性を検討します。</p> <p>(3) この最終段階では、LFA プロトタイプ作製とその初期試験を実施します。具体的には、実地検査での使用を見据えた現実的なプロトタイプ・プラットフォームの構築を目指します。</p>
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/140/jp

【注意事項】

- GHIT Fund では、製品開発案件に対して「助成」することを、「投資」と表現しています。製品開発に対して資金提供だけを行うのではなく、積極的に進捗管理に関与し、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止するなど、厳格なポートフォリオ・マネジメントを行っています。一般的に用いられる、金銭的利益を目的とした「投資」とは意味合いが異なります。
- 「継続投資」とは、過去に GHIT Fund から投資を受けている製品開発パートナーが、GHIT Fund から新たな投資を受ける際に用いることを指します。

【グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) について】

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) は、日本政府 (外務省、厚生労働省)、製薬企業などの民間企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する、グローバルヘルス分野の製品開発に特化した日本初の国際的な官民パートナーシップです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病 (NTDs) などの感染症と闘うための新薬開発への投資、ならびにポートフォリオ・マネジメントを行っています。GHIT Fund は、治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、日本の製薬企業、大学、研究機関等の参画を促進しています。詳しくは、<https://www.ghitfund.org> をご覧ください。

別紙 2. これまでの投資実績(2019年3月28日時点)

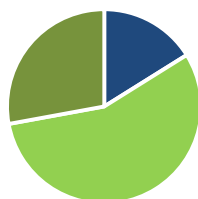
1. 累積投資

累積投資額 約 170 億円

累積投資件数 80 件(内訳:進行案件 50 件、終了案件 30 件)

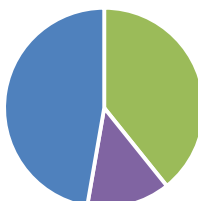
2. 累積投資内訳

開発段階



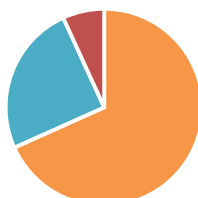
■ 探索研究	¥2,738,943,901	16.1%	(46 件)
■ 非臨床試験	¥9,516,957,080	56.0%	(23 件)
■ 臨床試験	¥4,737,846,333	27.9%	(11 件)

疾患



■ マラリア	¥6,668,014,209	39.2%	(34 件)
■ 結核	¥2,294,287,601	13.5%	(18 件)
■ 顧みられない熱帯病	¥8,031,445,504	47.3%	(28 件)

製品



■ 治療薬	¥11,605,970,988	68.3%	(55 件)
■ ワクチン	¥4,227,072,881	24.9%	(18 件)
■ 診断薬	¥1,160,703,445	6.8%	(7 件)

詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

投資実績: <https://www.ghitfund.org/investment/overview/jp>ポートフォリオ: <https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp>開発状況: <https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp>臨床試験: <https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp>